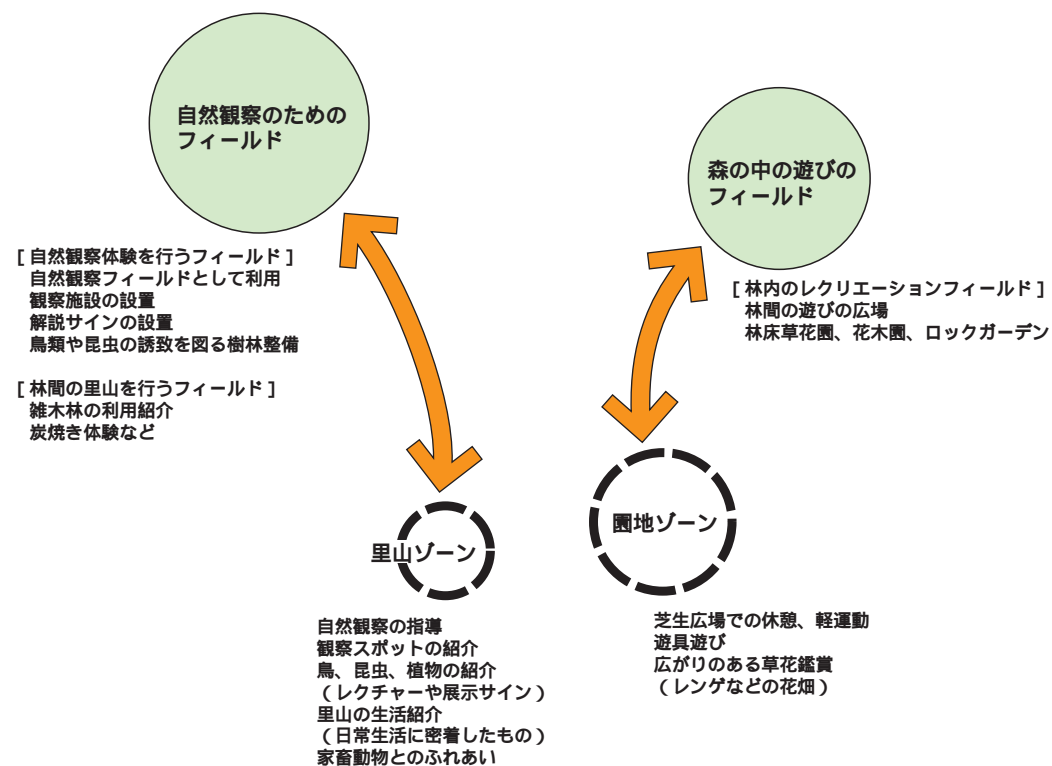


中央公園との連携について

計画地と中央公園の連携内容

ゾーン名称	機能	県公園エリアとの連携
動物展示ゾーン (世界の動物)	・野生動物の展示 ・生息地の環境体験	
動物展示ゾーン (郷土の動物)		
ふれあい動物園 ゾーン	・動物とのふれあい	
里山ゾーン	・里山の生活体験 ・自然観察のガイダンス ・動物とのふれあい	林間の里山体験フィールドとして利用 自然観察のフィールドとして利用
園地ゾーン	・広場での休息、軽運動、お弁当 ・園内の眺望 ・遊具による遊戯 ・草花の観賞	林間のレクリエーション(遊び場)として利用
学習ゾーン	・映像を用いた環境学習 ・林間学園や各種イベント	
管理ゾーン	・動物の管理 ・希少動物の保護・繁殖 ・公園全体の管理	
駐車場		不足する駐車場の整備 駐車場への進入路の整備
その他 (樹林、入口等)	・環境保全 ・隣接地とのバッファ	



今後の計画、設計に向けての留意点

- ・計画地の経営にあたっては、良質なサービスを継続的に提供するため、経営の健全化が望まれる。
- ・現在、仮称として上げられている「動物のいる自然の森公園」という公園名称では、「自然の森」に「動物のいる」のは当然であり、同義反復となっている。今後の検討においては、「動物の森公園」などのわかりやすい名称を検討することが望まれる。
- ・計画地におけるシンボリック施設となる「里山ゾーン」は、新しい動物園的施設の方向性を示す重要なエリアである。中央公園との連携を図りながら周辺の良い樹林や水環境をできるだけ取り込むことにより、広いエリアで運営することが望まれる。
- ・動物公園と中央公園との利用連携を円滑に図り、かつ誰でもが利用しやすい環境を実現するためには、地形の高低差や施設間の距離を克服する連絡動線を設置する必要がある。
- ・郷土の動物として、ズグロカモメ及びニホンカモシカの導入を検討する。